

学科名	電気通信工学科、電気電子工学科、建築・デザイン学科、情報学科						
科目名	環境と生物						
科目区分	人間形成科目	単位数	2	開講時期	後期		
必修・選択の別	選択						
担当者	大貫 宏一郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・進化論における「突然変異」と「自然淘汰」の関係を説明できる ・セントラルドグマの個々の段階を把握し、遺伝情報の流れを描ける ・食べ物は体内でどのように我々の体に役立っているのか記述できる ・環境によって生物がいかに影響されるかを説明できる (A9,C5,C7) 						
日程と内容	第1回：導入講義、授業の進め方と概要の説明、成績評価法など。 第2回：生命の起源 第3回：地球と生物の歴史 第4回：進化論 第5回：遺伝子とタンパク質 第6回：水と大気 第7回：温度環境への適応 第8回：免疫機能 第9回：バイオリズム 第10回：環境と食物 第11回：食物連鎖と生物濃縮 第12回：内分泌系と環境ホルモン 第13回：遺伝子組み換え生物 第14回：放射性物質 第15回：総合復習 定期試験						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	予定していた項目はすべて実施して、概ね達成できたと考えている。						
反省点	複数の学科から聴講しており、学年にも幅があり、環境や生物に対する基礎知識もあまりないため、困難な講義であったと感じている。「食生活アドバイザー」という人気資格を取得できるようにして興味を持ってもらったり、分かりやすい説明になるよう試行錯誤したが、改善すべき点は多くあるように感じた。						
来年度の計画	項目自体は同様として、内容の充実を図りたいと考えている。具体的には、毎回動画を視聴させたり、テキスト以外の分かりやすい教材を提供したいと考えている。						
授業評価アンケートに対するコメント	初めての開講でもあり運営に難しさを感じていたが、総合が8.5であることや、教員の準備や分かりやすさ、熱意、接し方といった項目をはじめとして多くが4.4であり、全ての項目においても4.3から4.4であることで安心した。また、分かりやすかった、興味を持てた、といった自由記述もあったので、来年度は積極的により分かりやすさや興味を持ってもらえることを追及していきたいと考えた。						
履修登録者数	142名	定期試験 受験者数	135名	合格者数	130名	合格率	96%